

基本計画書

基本計画									
事項		記入欄							備考
計画の区分		学科における通信教育の開設							
フリガナ設置者		カッコウホウジツノカマクゼジヨシダイクウ 学校法人鎌倉女子大学							
フリガナ大学の名称		カマクゼジヨシダイクウタンキダイクウ 鎌倉女子大学短期大学部							
大学本部の位置		神奈川県鎌倉市大船六丁目1番3号							
大学の目的		日本国憲法の精神に基づき、鎌倉女子大学の教育の理念である『感謝と奉仕に生きる人づくり』を中核としたその建学の精神に則り、社会生活に有益な専門的な教育研究を推進することを通じて、科学的教養と優雅な性情を涵養し、以って人類の福祉及び文化の向上発展に寄与すること。							
新設学部等の目的		主として通信の方法により、幼児及び児童が生きる生活世界の基礎的理解と、教育・保育の活動等に資する理論及びその応用・実践についての教育研究を通じて、健全で幸福な社会の発展に寄与できる知見と方法、豊かな人間性と高い倫理性をもった人材を養成すること。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	初等教育学科 通信教育課程 計	2年	300人	—年次人	600人	短期大学士（教育学）	教育学・保育学関係	令和7年4月 第1年次	神奈川県鎌倉市大船六丁目1番3号
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		該当なし							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	初等教育学科 通信教育課程	講義	演習	実験・実習	計	62単位			
		34科目	35科目	4科目	73科目				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）	
		教授	准教授	講師	助教	計	人	人	
新設	初等教育学科 通信教育課程	6人 (6)	12人 (12)	3人 (3)	0人 (0)	21人 (21)	0人 (0)	20人 (20)	
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	5 (5)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	20 (20)	/	/	
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	小計（a～b）	6 (6)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	21 (21)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)			
	計（a～d）	6 (6)	13 (13)	3 (3)	0 (0)	22 (22)			
分	計	6 (6)	13 (13)	3 (3)	0 (0)	22 (22)			0 (0)

既設	初等教育学科		6 (6)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	65 (65)	短期大学設置基準別表第一に定める基幹教員数の四分の三の数9人	
	設	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの		5 (5)	12 (12)	3 (3)	0 (0)				20 (20)
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				1 (1)
		小計（a～b）		6 (6)	12 (12)	3 (3)	0 (0)				21 (21)
		c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				0 (0)
		d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				0 (0)
		計（a～d）		6 (6)	12 (12)	3 (3)	0 (0)				21 (21)
分	計		6 (6)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	— (—)		
合計			6 (6)	13 (13)	3 (3)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	— (—)		
職種			専属		その他			計			
事務職員			11 (11)		1 (1)			12 (12)		人	
技術職員			0 (0)		0 (0)			0 (0)			
図書館職員			1 (1)		0 (0)			1 (1)			
その他の職員			0 (0)		5 (5)			5 (5)			
指導補助者			0 (0)		0 (0)			0 (0)			
計			12 (12)		6 (6)			18 (18)			
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用			計				
	校舎敷地	0 m ²	66,365 m ²	0 m ²			66,365 m ²		鎌倉女子大学（大学設置基準必要面積20,400m ² ）と共用		
	その他	0 m ²	0 m ²	0 m ²			0 m ²				
	合計	0 m ²	66,365 m ²	0 m ²			66,365 m ²				
校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用			計		鎌倉女子大学（大学設置基準必要面積13,552m ² ）と共用			
	0 m ² (0 m ²)	35,970 m ² (35,970 m ²)	0 m ² (0 m ²)			35,970 m ² (0 m ²)					
教室・教員研究室		教室	96室		教員研究室		21室		教室については、大学と共用、大学・短大全体		
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子図書 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能なため、大学・短大全体の数	
		冊	種								
	初等教育学科 通信教育課程	221,000 [13,770] (215,600 [13,530])	3,500 [270] (3,100 [230])	4,505 [2,824] (4,505 [2,824])	2,645 [2,640] (2,645 [2,640])	4,232 (4,036)	— (—)				
計	221,000 [13,770] (215,600 [13,530])	3,500 [270] (3,100 [230])	4,505 [2,824] (4,505 [2,824])	2,645 [2,640] (2,645 [2,640])	4,232 (4,036)	— (—)					
スポーツ施設等	スポーツ施設		講堂		厚生補導施設				大学と共用、大学・短大全体		
	767,5 m ²		2235,5 m ²		209,45 m ²						

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	共同研究費等については、大学・短大全体の合計 図書購入費については、電子ブック、配信動画、DVDが含まれる
	教員1人当り研究費等		270千円	270千円	—	—	—	—	
	共同研究費等		2,370千円	2,370千円	—	—	—	—	
	図書購入費	807千円	0千円	0千円	—	—	—	—	
	設備購入費	679千円	90千円	0千円	—	—	—	—	
学生1人当り納付金		第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
			295千円	265千円	—千円	—千円	—千円	—千円	
学生納付金以外の維持方法の概要	手数料収入、国庫補助金収入及び資産運用収入等を充当して維持する。								
既設大学等の状況	大学等の名称	鎌倉女子大学短期大学部							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	初等教育学科	2年	200人	—年次人	400人	短期大学士(教育学)	0.64倍	昭和32年度	神奈川県鎌倉市大船六丁目1番3号
既設大学等の状況	大学等の名称	鎌倉女子大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地
	家政学部						1.20倍		神奈川県鎌倉市大船六丁目1番3号
	家政保健学科	4	80	—	320	学士(家政学)	1.32	平成17年度	
	管理栄養学科	4	120	—	480	学士(栄養学)	1.12	平成15年度	
	児童学部						1.12		
	児童学科	4	170	—	680	学士(児童学)	1.09	平成14年度	
	子ども心理学科	4	50	—	200	学士(心理学)	1.24	平成14年度	
	教育学部						1.11		
	教育学科	4	80	20	360	学士(教育学)	1.11	平成21年度	
児童学研究科									
児童学専攻	2	10	—	20	修士(児童学)	0.70	平成18年度		
附属施設の概要	該当なし								

教 育 課 程 等 の 概 要																
(初等教育学科通信教育課程)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助手を除く)
総合教育科目	建学の精神 子ども総合教育講座	1前	○	2			○			3	2				1	メディア オムニバス
	小計 (1科目)	—	—	2	0	0	—			3	2	0	0		1	
	文化 鎌倉の歴史・文化	2前			2		○								1	メディア
	小計 (1科目)	—	—	0	2	0	—			0	0	0	0		1	
	社会と産業 日本国憲法	1後			2		○								1	メディア
		経済のしくみ	2後			2		○							1	メディア
		小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—			0	0	0	0		2
	自然と生命 生活と環境	1後			2		○								1	メディア
		小計 (1科目)	—	—	0	2	0	—			0	0	0	0		1
	生活と技術 数と統計	2前			2		○								1	メディア
		日本語表現	2後			2		○			1					メディア
		キャリアデザイン	2前			2		○			1					メディア
		小計 (3科目)	—	—	0	6	0	—			1	0	0	0		1
	健康とスポーツ 健康・スポーツ科学	1前			1		○								1	メディア
		スポーツ実技	1後			1			○			1				メディア
		小計 (2科目)	—	—	2	0	0	—			0	1	0	0		1
	情報科学 情報リテラシー	1前			2		○								1	メディア
		プレゼンテーション	1後			1			○						1	メディア
		小計 (2科目)	—	—	2	1	0	—			0	0	0	0		1
	外国語 英語	1後			2				○						1	メディア
英語コミュニケーション		1前			2			○						1	メディア	
小計 (2科目)		—	—	0	4	0	—			0	0	0	0		1	
専門教育科目 小学校教科・教科指導法	国語（書写を含む）	1前	○		2			○		1					メディア	
	社会	2前			2		○							1	メディア	
	算数	1後			2		○							1	メディア	
	理科	2前			2		○							1	メディア	
	生活	1後	○		2		○				1				メディア	
	音楽	1前	○		2			○		1	1				メディア オムニバス 共同	
	図画工作	1前	○		2			○			1	1			メディア オムニバス 共同	
	家庭	2前			2		○					1		2	メディア オムニバス	
	体育	1前	○		2			○			1				メディア 面接	
	小学校英語	2前	○		2		○				1				メディア	
	国語科教育法	1後			2			○		1					メディア	
	社会科教育法	2後			2			○						1	メディア	
	算数科教育法	1後			2			○						1	メディア	

専門教育科目	小学校教科・教科指導法	理科教育法	2後		2		○							1	メディア	
		生活科教育法	2前		2		○			1					メディア	
		音楽科教育法	1後		2		○			1					メディア	
		図画工作科教育法	1後		2		○			1					メディア	
		家庭科教育法	2後		2		○							1	メディア	
		体育科教育法	2前		2		○							1	メディア	
		小学校英語教育法	2後		2		○				1				メディア	
		小計 (20科目)	—	—	0	40	0	—			2	6	1	0		7
	幼稚園領域・保育内容指導法	子どもと健康	1前	○		1		○								メディア
		子どもと人間関係	1前			1		○			1					メディア
		子どもと環境	1前			1		○				1				メディア
		子どもと言葉	1前			1		○			1					メディア
		子どもと表現 (音楽)	1前	○		1		○		1	1					メディア オムニバス
		子どもと表現 (造形)	1前	○		1		○			1	1				メディア オムニバス
		保育内容総論	2前	○		2		○			1					メディア
		保育内容演習健康	1後			2		○			1					メディア
		保育内容演習人間関係	1後			2		○			1					メディア
		保育内容演習環境	1後			2		○					1			メディア
		保育内容演習言葉	2後			2		○			1					メディア
保育内容演習表現	2後			2		○			1		1			メディア オムニバス		
小計 (12科目)	—	—	0	18	0	—			1	6	2	0		0		
小学校・幼稚園教職	教育原理	1前	○	2			○			1					メディア	
	教職概論 (同和教育を含む)	1後	○	2			○			1					メディア	
	教育制度	2前		2			○			1					メディア	
	発達心理学	1前	○	2			○			1	1				メディア オムニバス	
	教育心理学	2後		2			○						1		メディア	
	特別支援教育	2後		1			○						1		メディア	
	教育方法・技術 (情報通信技術の活用を含む)	2前		2			○						1		メディア	
	教育相談	2後	○	2			○			1					メディア	
小計 (8科目)	—	—	4	11	0	—			2	4	0	0		3		
小学校教職	カリキュラム論Ⅱ	1後	○	2			○			1					メディア	
	道徳教育の理論と方法	2前		2			○			1					メディア	
	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2後		2			○				1				メディア	
	児童指導	1前	○	2			○			1					メディア	
小計 (4科目)	—	—	0	8	0	—			1	2	0	0		0		
幼稚園教職	カリキュラム論Ⅰ	1後	○	2			○				1				メディア	
	幼児指導	2前	○	2			○			1					メディア	
	小計 (2科目)	—	—	0	4	0	—			1	1	0	0		0	
小学校・幼稚園実践	教育実習指導	1後	○	1			○			1	1				面接 共同	
	教育実習	2前後	○	4				○		5	10	3			実習 共同	
	教職実践演習 (幼・小)	2後	○	2			○			1	5	1			メディア 共同	
	小計 (3科目)	—	—	0	7	0	—			5	10	3	0		0	

専門教育科目	児童厚生 指導員	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	1前			2		○							1				1	面接	オムニバス	
		児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法①	2前			2			○										1	面接		
		児童館実習	2前後			2					○				1	2				1	実習	共同
		小計 (3科目)	—	—	0	6	0		—						1	2	0	0		2		
	幼児体育 指導員	幼児の運動指導	1・2前			2				○						1					メディア 面接	
		小計 (1科目)	—	—	0	2	0		—						0	1	0	0		0		
	レクリエーション・ インストラクター	レクリエーション理論	1後			2			○							1					メディア	
		レクリエーション実技	2前			1						○				1					メディア 面接	
		レクリエーション実習 (学外)	2前後			1							○			1					実習	
		小計 (3科目)	—	—	0	4	0		—						0	1	0	0		0		
	キャンプ・ インストラクター	キャンプと自然体験	1・2前			2					○					1					メディア 面接	
		小計 (1科目)	—	—	0	2	0		—						0	1	0	0		0		
	秘書士	秘書学概論	2前			2			○						1						メディア	
		秘書実務	2後			2			○						1						メディア	
		小計 (2科目)	—	—	0	4	0		—						1	0	0	0		0		
合計 (73科目)			—	—	10	125	0		—					6	13	3	0		20			
学位又は称号		短期大学士 (教育学)				学位又は学科の分野				教育学・保育学												
卒業・修了要件及び履修方法										授業期間等												
2年以上在学し、次の単位 (合計62単位以上) を修得すること。 ・総合教育科目は、必修科目6単位、「精神と文化」「社会と産業」「生命と自然」「生活と技術」の選択科目から2単位以上、「外国語」の選択科目から2単位以上修得し、合計14単位以上修得すること。 ・専門教育科目は、必修科目4単位、選択科目44単位以上修得し、合計48単位以上修得すること。										1学年の学期区分				2学期								
										1学期の授業期間				15週								
										1時限の授業の標準時間				90分								

授 業 科 目 の 概 要				
（短期大学部 初等教育学科 通信教育課程）				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
総合教育科目	建学の精神	子ども総合教育講座	<p>（概要） 鎌倉女子大学の「建学の精神」の体系は、エンブレムに象徴されるように知育・徳育・体育の調和によって「聡明な頭（知）」「綺麗な心（仁）」「健康な体（勇）」を育成・形成するところにある。この「建学の精神」の体系に基づき編成された「子ども総合教育講座」は、当通信教育課程（e-learning course）の基礎科目（必修）として位置づけられ、今日の食育問題や子どもの人権問題も交えながら、特に初等教育段階の子どもの心身の成長を教育学・心理学・体育学・栄養学・社会福祉学の専門家がオムニバス形式で解説していく。授業の終盤には、担当者によるディスカッションを通じて子どもの成長について「教育」の果たす役割について総合的に考える。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（1 小泉 裕子/3回 ①⑫担当） 小泉担当の第1回目では、「子ども総合教育講座」の授業の概要および目的、到達目標についてガイダンスを伴う授業を実施する。また第15回授業では、授業担当の5人の教員とともに、それぞれの専門領域の立場から「これからの初等教育（小学校、幼稚園等）の果たす役割」をテーマにディスカッションを行うとともに当講義全体で学修した内容の総括を行い、受講生自らが「教員を目指す貴方のこれからの目標と課題」を整理できるための指導を行う。</p> <p>（3 中島 朋紀/4回 ④⑤⑥⑮回担当） 中島担当授業では、「子どもの心と安心」（徳育編）として3回の授業を通して、教育者によって創り出される庇護性の空間の中で安心して生活する子どもの心の安定、価値の基礎となる感性・情緒の涵養、社会生活の基準となる善悪観の醸成について講義する。第15回の授業では、授業担当の5人の教員とともに、教育学の専門領域の立場からディスカッションに参加し「これからの初等教育（小学校、幼稚園等）の果たす役割」について議論を交わす。</p> <p>○（4 細野 美幸/4回 ①②③⑮回担当） 細野担当の授業では、「子どもの知識と知恵」（知育編）として3回の授業を通して、今日の脳科学的知見も見据え、知識の習得と知恵の形成、その形成過程に関する体験と知識、身体と頭脳、感覚機能と言語能力の相互作用について講義する。第15回の授業では、授業担当の5人の教員とともに、心理学の専門領域の立場からディスカッションに参加し「これからの初等教育（小学校、幼稚園等）の果たす役割」について議論を交わす。</p> <p>（9 高須 正幸/3回 ⑬⑭⑮回担当） 高須担当授業では、「子どもの生活と福祉」（人権編）として2回の授業を通して、子どもを取り巻く様々な問題、子どもに関する相談機関、児童相談所の業務や社会的養護の現場について解説する。第15回の授業では、授業担当の5人の教員とともに、社会福祉学の専門領域の立場からディスカッションに参加し「これからの初等教育（小学校、幼稚園等）の果たす役割」について議論を交わす。</p> <p>（15 西島 大祐/4回 ⑦⑧⑨⑮回担当） 西島担当授業では、「子どもの体と遊び」（体育編）として3回の授業を通して、心身の健康作り、遊びを通しての自己認識の経験、運動・スポーツを通じての団体生活の訓練について講義する。第15回の授業では、授業担当の5人の教員とともに、体育学の専門領域の立場からディスカッションに参加し「これからの初等教育（小学校、幼稚園等）の果たす役割」について議論を交わす。</p> <p>（30 落合 由美/4回 ⑩⑪⑫⑮回担当） 落合担当授業では、「子どもの食と栄養」（食育編）として3回の授業を通して、良い頭・綺麗な心・強い体を育てるための食生活と栄養摂取、また生活習慣の基礎となる子どもの睡眠について講義する。第15回の授業では、授業担当の5人の教員とともに、栄養学の専門領域の立場からディスカッションに参加し「これからの初等教育（小学校、幼稚園等）の果たす役割」について議論を交わす。</p>	主要授業科目 オムニバス方式
		鎌倉の歴史・文化	鎌倉の歴史・文化について、地理的な背景を踏まえ、様々な角度から概観する。鎌倉の歴史を、古代から鎌倉時代までの鎌倉が「武家の都」として栄えるまでの時代と、江戸時代に鎌倉が「武家の古都」として再生してから現在にいたるまでの時代の二つに大きく分けて、各時代における鎌倉の政治・文化・社会・宗教や、鎌倉の街づくり、鎌倉の魅力について講義する。	

総合教育科目	社会と産業	日本国憲法		この講義では、我が国の最高法規である憲法の基本的枠組みを理解した上で、憲法が我々の生活にどのように結びついているのかを様々な事例を通して学ぶ。国の仕組みおよび人権保障を中心に、時事問題も取り上げながら、憲法についての理解を深める。	
総合教育科目	社会と産業	経済のしくみ		現代社会において、健全な社会人として働き、賢い消費者として生活するためには、経済の基本的な動きを理解することが必要であろう。本授業では、経済現象を理解するのに必要とされる知識やしきみを、日本経済を事例として学ぶ。また、現在の経済は、ヒト・モノ・カネ・情報が国境を越えて目まぐるしく移動することで成立しているのので、グローバルな経済取引がおこなわれるしくみ、その中で家計・企業・政府の役割について学ぶ。	
総合教育科目	生命と自然	生活と環境		地球環境問題は人類社会共通の課題であるが、最適解はなく、人々の多様な価値観や利害関係によって、多角的に捉える必要がある。国連の「持続可能な開発目標(SDGs)」の17のゴールに未来をつくる子どもたちとどのように活動していけるか。「持続可能な開発のための教育(ESD)」を進めていくために、身の回りにおける環境問題に気づき、調べ、考え、提案し、実行できることを考えるための学びを深める。本授業内容はSDGs17のゴールのうち、とくに目標4、6、7、11、12、13、14、15に関連する。	
総合教育科目	生活と技術	数と統計		情報技術の革新、デジタル化に伴い、現代社会には様々な数量的情報やデータを活用したサービスが溢れている。このようなデジタル社会の到来に伴い、現代においては文系・理系を問わずデータサイエンス・AIが基礎的知識と捉えられ始めている。本授業では、データサイエンス・AIが日常の生活や仕事等の場でどのように活用可能なのか理解するとともに、適切にデータ分析を行い、その結果を読み解き、活用できるようになるための基礎的素養を身につけることを目的とする。	
総合教育科目	生活と技術	日本語表現		本授業では、口頭表現の技法(スピーチ)、目的に応じた文章表現の技法(就職試験などに対応した小論文、報告・連絡文書、手紙・Eメールなど)を学び、語彙や敬語の知識を深め、社会人基礎力としての言語表現力を身につける。また、生涯学習を視野に入れ、読書力を培うために古典から現代までの文学作品に触れ、優れた日本語表現を鑑賞する態度を身につける。	
総合教育科目	生活と技術	キャリアデザイン		将来の仕事=キャリアをデザインするための具体的な考え方や方法を知る。仕事をもち社会で活躍し続けるためにキャリアとライフのバランスをどう取ってゆかかを考えることが必要である。個々の将来像を探りながら、働き続けるために知っておくべき現代社会のしくみや制度を理解し、希望の職業に就くためには今後どう行動するべきかを考える。講義ではインターンシップ、実習、社会に出てから必要なプレゼン力やビジネスマナーも身につける。来るべき就職活動を意識しながら講義を進めてゆく。	
総合教育科目	健康とスポーツ	健康・スポーツ科学		現代社会における、健康管理とスポーツ・運動実践の関連性、及びその意義と必要性について、スポーツ科学と健康科学の最新トピックを用いて解説を行う。現代人にとって不可欠であるスポーツ活動と健康管理について、多面的な視点による理解の促進と、得られた知識を活用した批判的な思考力の醸成を目的とする。	
総合教育科目	健康とスポーツ	スポーツ実技		生涯を通してスポーツに親しむ資質や能力を培うとともに、健康な体づくりを実践する。運動種目に取り組むことで、運動特性を理解し、体を動かす楽しさを知る。本授業科目はすべてオンデマンドで行われる。	
総合教育科目	情報科学	情報リテラシー		情報機器の操作に関する演習と、データ・AI(人工知能)活用に関する講義を行う。演習では、文字入力やファイル操作などの情報機器の基本操作と、情報機器を文書作成と表計算に活用するためのスキルを身につける。講義では、データ・AIの利活用がどのように社会を変化させているか、データ・AIの利活用に関する技術や最新動向などを学ぶ。また、データ・AIを扱う上での様々な留意事項を解説し、データを守るための原則と方法も学ぶ。	
総合教育科目	情報科学	プレゼンテーション		企画書、プレゼンテーション資料、レポート、ポスターやチラシなどの資料を伝わりやすく作成するための情報デザインについて学ぶ。プレゼンテーション資料の作成に関しては、PowerPointの基本操作も扱う。様々な形式の資料に共通する「書体と文字」「文章と箇条書き」「図とグラフ・表」「全体のレイアウトと配色」に関するルールを学び、情報を効率的に、正確に伝えるための資料作成のスキルを身につける。	

総合教育科目	外国語	英語		身近なトピックを題材とする英文を読み、それに関する演習を行うことを通して、英語表現上の基礎知識、関連語彙の習得を図る。英文読解に重要な基礎的な英文法、英文構造、表現技法などについては、大学以前の英語学習の内容にさかのぼって説明を行うこともある。	
総合教育科目	外国語	英語コミュニケーション		幼児教育、特に保育園や幼稚園で使われる英語表現を扱ったテキストを通して、英語コミュニケーションの基礎表現や関連語彙の習得を図る。また、様々な工夫をしたアクティビティを英語で学習・展開することで、子どもたちの英語に対する興味を引き出し、英語に慣れ親しむ環境づくりを試みる。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	国語（書写を含む）	○	「話す・聞く・書く・読む」という国語の学習は、すべての学修活動の基盤となる。本授業では、受講生自らこれまでの国語学習を内省し、日常生活・社会生活に必要な国語表現力をさらに高めていく活動を展開する。具体的には、国語の各分野（日本語学、文学、言語文化、書写など）の基礎知識の充実を徹底し、口頭発表・文章表現の演習を行う。また、小学校国語科の学習指導を踏まえて、基礎的な教材研究・作品分析の方法を学び、研究協議を行う。	主要授業科目
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	社会		小学校社会科の指導計画作成や授業展開等に必要となる基礎的な知識・技能等の修得を目指す。具体的には、小学校学習指導要領の変遷や、現行小学校学習指導要領の概要を踏まえた上で、社会科の内容等を構成する地理的・歴史的・公的な事象に関する理解を深める。合わせて児童や教師が情報を収集・活用する際に必要となる技能等について、情報通信技術の活用を含めて取り扱う。また、任意の社会的事象を教材化し、授業展開を構想する。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	算数		算数科の目標を踏まえ、数学的活動等を取り入れながら、各領域（A数と計算、B図形、C測定、C変化と関係、Dデータの活用）での指導内容とそのねらいを捉えるとともに、算数問題を解く力を習得する授業を展開する。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	理科		この講義では、小学校の学習指導要領に基づいた理科の授業をデザインする力を養う。具体的には、学習指導要領の方向性、各学年の目標と内容、学習評価の方法、学習指導案の特徴、小学校理科で扱う各分野（エネルギー・粒子・生命・地球）の見方・考え方、ICT機器の活用方法、実験室管理の方法、実験や観察を安全に行うための留意事項、各学年の授業をデザインする上での留意事項などを示して行く。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	生活	○	学習指導要領の趣旨やねらいを理解し、生活科誕生の歴史的経緯と背景、生活科を重視した教育の系譜を理解し、新しい学力観に立った「生活科」の授業の在り方を実践例から学び、理解を深められるよう授業を展開する。 （実務経験を活かした授業）学校現場における教員の経験を活かして、今日的な課題を取り上げて実践的な指導をする。	主要授業科目
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	音楽	○	（概要） 小学校・幼稚園教育現場における指導の中で必要となる、ピアノ演奏、歌唱、弾き歌いの基礎技術を学ぶとともに、読譜力をつけるための楽典理論の学習を合わせて行う。ピアノ演奏、弾き歌いは、各自の音楽経験や実技レベルに合わせた課題曲を選択して実技演習・実技指導を行い、実技力を向上させる。 （オムニバス方式11回、共同4回/全15回） （2 薩摩林 淑子/オムニバス方式6回） 第1回の授業で「音楽」の概要を説明し、ピアノ演奏技術・歌唱表現技術の基礎演習を行う。第4～5回の授業で、楽譜の正しい読み方とピアノ実技の基礎、旋律の弾き方と和音の弾き方を学び、ピアノ曲の実技演習を行う。第9～11回の授業で、歌の楽曲解釈と歌唱法の基礎、歌の楽曲解釈と歌唱法の発展、歌とピアノのバランスと調和を学び、弾き歌いの実技演習を行う。 （8 後藤 俊哉/オムニバス方式5回） 楽典理論について担当する。第2～3回の授業で、楽譜の仕組み、五線、音部記号、鍵盤と音名、音符と休符、リズムと拍子と小節について学習し、第6～7回の授業で、変化記号と派生音の音名、音程、調と音階、音楽用語、コードネームについて学ぶ。第8回の授業でまとめのテストを実施し、解説を行う。 （2 薩摩林 淑子 8 後藤 俊哉/共同4回） 第12回の授業で、ピアノ曲の実技指導・実技発表、第13回で弾き歌いの実技指導・実技発表を行う。第14回では合唱を实践し、合唱指導の留意点について学ぶ。第15回で器楽アンサンブル・リコーダーの実践、合奏指導の留意点について学習する。	主要授業科目 オムニバス方式 共同（一部）

<p>専門教育科目</p>	<p>小学校教科・教科指導法</p>	<p>図画工作</p>	<p>(概要) 子どもが創造的な造形活動を行うためには、指導者に材料・用具・技能に関する知識と経験が求められる。また、それぞれの発達段階に適した教材の工夫が必要である。この科目では、子どもの教育現場で扱う基本的な用具・材料を用いて課題制作を行ない、子どもが造形活動を行なう意味の理解を幅広く深めていく。</p> <p>(オムニバス方式11回、共同4回/全15回)</p> <p>(13 山成 美穂/5.5回 ①②③④前半、⑩⑪回担当) 第1回～第4回の授業は、学習指導要領における「絵に表す」の内容を理解し、小学校で扱われる画材、道具の使い方を実践的に習得する。第1回では、クレヨン・パスを用いたぼかしの技法、第2回の授業では、色鉛筆、クレヨン・パスによるフロッターージュ、スクラッチの技法、第3回の授業では、クレヨン・パスと水彩絵を活用した水彩絵の具の応用的な技法として、泡絵の具、糸引きを学習する。第10回～第11回の授業では、学習指導要領における「工作に表す」の内容を理解し、はさみ・のり・カッターなどの道具の扱い方と、しかけカード制作を通して、構想力、発想力を高めることの意義を実践的に学習する。</p> <p>○ (18 曾我 市太郎/5.5回 ④後半⑤⑥⑦⑧⑨回担当) 第4回～第7回の授業は、第1回からの授業内容に続き、学習指導要領における「絵に表す」の内容を理解し、小学校で扱われる画材、道具の使い方を実践的に習得する。第4回授業の後半では、水彩絵の具のドリッピング、吹流しについて学ぶ。第5回授業では、水彩絵の具によるスタンピング、フィンガーペインティングを学び、第6回授業では、素材を利用して描くカラーージュの技法、第7回授業では、スパッタリングの技法を学ぶ。第8回～第9回の授業では、学習指導要領における「立体に表す」の内容を理解し、粘土による立体造形を学習する。第8回に紙粘土の造形方法、第9回に紙粘土作品の着色方法を学習する。</p> <p>(13 山成 美穂 18 曾我 市太郎/共同4回 ⑫⑬⑭⑮回) 第12回～第15回は、スクーリング授業である。第12回、第13回は、学習指導要領における「鑑賞」の内容を理解することを目的とし、第11回目までに制作した作品の鑑賞会を行い、「鑑賞」における留意点、意義などを実践的に学習する。第14回～第15回では、学習指導要領における「造形遊び」の内容を理解することを目的とし、第14回ではICT活用による造形遊びの課題実践、第15回では、身近な素材を用いた共同制作の課題実践を行う。</p>	<p>主要授業科目 オムニバス方式 共同(一部)</p>
<p>専門教育科目</p>	<p>小学校教科・教科指導法</p>	<p>家庭</p>	<p>(概要) 小学校における「家庭」の授業実践に必要な実践的な知識・技能と、家庭科に関連する背景的な知識を身に付けられるよう授業を展開する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(37 佐藤 陽子/11回) 第1回～第3回の授業で、家庭科の目標や内容構成、学習対象について説明し、「家族・家庭生活」の学習を通して自分の成長・家庭生活と家族の大切さについて学ぶ。第4回～第8回の授業で、「衣食住」における「食生活」について学習する。調理について、「消費生活・環境」との学習内容の関連、栄養を考えた食事について学習する。第13回の授業で、「衣食住」における「住生活」について、健康・快適・安全な住まい方の工夫を学習する。第14回で「消費生活・環境」について、持続可能な社会の構築に向けた消費生活と環境を学び、第15回で小・中学校の系統性を学習する。</p> <p>(32 谷 祥子/4回) 第9回～第12回の授業で、「衣食住」における「衣生活」について学習する。衣服の着用と手入れ、布を用いた製作、手縫いの技能、ミシン縫いの技能・留意点と配慮点を学ぶ。</p>	<p>オムニバス方式</p>
<p>専門教育科目</p>	<p>小学校教科・教科指導法</p>	<p>体育</p>	<p>○ 子どもの運動遊びや教科体育の領域で取り上げられている活動について、そのねらいや展開方法、安全上の留意点などについて学んでいく。子どもが身体を動かすことの意義を理解するとともに、指導できる技術の獲得を目指す。本授業科目はオンデマンド講義のほか、対面での実技によって行われる。</p>	<p>主要授業科目</p>
<p>専門教育科目</p>	<p>小学校教科・教科指導法</p>	<p>小学校英語</p>	<p>○ 小学校英語教育の目標について理解するとともに、その指導を行う上で必要な第二言語習得の基本的な理論や異文化理解に関する事柄などについて理解を深める。現行学習指導要領(外国語活動・外国語)の内容を踏まえて、授業場面を意識できるように聞くこと・読むこと・書くこと・話すことの活動を紹介し、言語活動を通じた指導を行う上で必要な教室英語の基本的運用能力を身に付けられるよう授業を展開する。</p>	<p>主要授業科目</p>

専門教育科目	小学校教科・教科指導法	国語科教育法		小学校国語科の授業を実践する資質・能力を養うために、学習指導要領の目標・領域・内容について理解する。国語科における主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくりのために、指導計画や指導方法を理解し、学習指導案を作成する。教材研究・模擬授業を通して研究協議を行い、実践的な指導力や授業の創意工夫の方法を自ら進んで身につけていく。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	社会科教育法		学習指導要領解説社会科編をもとに、小学校社会科の目標や内容、指導方法についての理解を図る。また、社会科の歴史の変遷に触れ、社会科の役割や使命、教科としての特色についても理解を図る。そして、「主体的・対話的で深い学び」を実現する社会科授業づくりについて、学習指導案作成や具体的な実践事例を通して実践的に学び、教科目標を実現するために大切にしている「問題解決的な学習」について理解を深める。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	算数科教育法		算数科の目標や指導内容を知り、その意味や意義、指導方法等について理解する。そのため、学習指導要領解説に示された内容や教科書教材等を調べ、発達段階に応じた指導の要点をとらえるとともに、評価や指導のあり方について考察し、模擬授業を通して指導のポイントをつかめられるよう授業を展開する。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	理科教育法		小学校学習指導要領（理科）の目標及び内容、指導計画、学習評価、学習環境整備の方法等を扱う。小学校第3学年から第6学年の理科の学習内容と教材について学び、主体的・対話的で深い学びの実現が可能な学習指導案を構成する力を育成する。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	生活科教育法		新学習指導要領の趣旨やねらいを理解し、生活科誕生の歴史の経緯と背景、生活科を重視した教育の系譜を理解し、新しい学力観に立った「生活科」の授業の在り方を実践例から学び、理解を深められるよう授業を展開する。 実務経験を活かした授業:学校現場における教員の経験を活かして、今日的な課題を取り上げて実践的な指導をする。（実務経験を活かした授業）	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	音楽科教育法		小学校音楽科の目標及び内容を理解し、各領域の指導方法や評価について学ぶ。また、実技や模擬授業、指導案作成を通して、音楽科の授業を構成・展開する上で必要な基礎知識及び技能、指導法を身につける。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	図画工作科教育法		図画工作科における実践的な指導方法を、総合的に身につけることを目標とする。また、学習指導要領及び教科書の題材についての内容理解を深める。子どもの発達段階に応じ、個性を尊重することを考慮した年間指導計画と学習指導案を作成する能力を身につけ、図画工作科における成績評価のあり方について学習することを目指す。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	家庭科教育法		小学校学習指導要領（家庭）の目標及び内容、指導計画、学習評価、学習環境整備の方法等を扱う。小学校第5学年から第6学年の家庭科の授業で扱う学習内容と教材について学び、主体的・対話的で深い学びの実現が可能な学習指導案を構成する力を育成する。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	体育科教育法		小学校学習指導要領の目標および内容、育成を目指す資質・能力について理解する。児童の健康状態を把握し安全で楽しく相互に協力して運動に取り組む姿勢を育むための指導理論について学ぶとともに、体育的行事を含めた児童の運動や健康に関する知見を深めていく。また、主体的・対話的で深い学びができる指導理論について学ぶ。さらにそれらの指導理論をふまえた単元計画、授業設計を行い、学習指導案の作成を行う。	
専門教育科目	小学校教科・教科指導法	小学校英語教育法		小学校における外国語活動（中学年）・外国語（高学年）の指導方法や評価について理解を深め、学習到達目標に基づいた指導計画を考えるなど授業づくりに必要な知識・技術を身に付けられるよう授業を展開する。本授業では、各学年の学習内容に応じて授業を展開できるよう、言語活動を通じた指導技術を磨くとともに、児童の発達段階に応じた指導の工夫を考えるなど実践的な英語指導力を身につける。	

専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	子どもと健康	○	「子どもと健康」の授業では、領域「健康」の指導に関する専門的事項（乳幼児の健康、心身の発達と基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達と身体活動）について実践的に学び、乳幼児期の子どもと健康な生活を支えるための知識や技能を身に付ける。	主要授業科目
専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	子どもと人間関係		本授業では、現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を及ぼす社会的背景を理解し、保育・幼児教育で保障すべき子どもの育ちや経験を理解する。特に乳幼児期の人間関係は、他者（家族、保育者、友だち、地域の人々など）との関係や遊び・生活等の場面を通じて育つことを、具体的な子どもの姿と合わせて理解する。また、他者との関わりを通じて育まれる自立心、協同性、道徳性・規範意識などの発達過程を学び、人と関わる力を育むための保育者の役割を考察する。	
専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	子どもと環境		1子どもを取り巻く環境の実際を知り、理解し、課題を明確にして、自分の出来ることは何かを考えられるようにする。 2領域「環境」の保育内容や、幼児期の思考・科学的概念の発達のプロセスを理解できるようにする。 3具体的事例を挙げながら、集団生活の中で、自然や事物・事象への興味・関心を育てる環境の在り方や、物の性質や数量、文字などへの感覚を豊かにする素材や教材などに関する知識と技術を学べるようにする。	
専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	子どもと言葉		領域「言葉」の指導の基盤となる、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的な知識と技能を身に付ける。具体的には、「言葉」の意義と機能について理解した上で、子どもの言葉を育て、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践に関する知識および技能の基礎を身に付ける。	
専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	子どもと表現（音楽）	○	（概要） 「子どもと表現」の授業では、子どもの音楽的な表現とその発達について理解するとともに、領域「表現」の指導に関する専門的事項（子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成など）について実践的に学び、乳幼児期の音楽表現活動を支えるための知識・技能、表現力を身に付ける。 （オムニバス方式/全8回） （2 薩摩林 淑子/4回） 第3回の授業で、子どもの発達の特性と音楽的な表現について学び、第4回の授業では、リズム遊び・リトミックの実践を通して子どもと身体表現について学ぶ。第5回の授業では、歌う活動の実践と指導を通し、子どもの歌唱表現について学習する。第7回の授業で、子どもと器楽表現について、手作り楽器の意義と制作から学習する。 （8 後藤 俊哉/4回） 第1～2回の授業では、領域「表現」のねらいと内容について学ぶ。第1回は音楽的な観点から、第2回は10の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の理解と小学校音楽教育との連続性から学習する。第6回の授業で、楽器遊びを中心とした実践と指導方法の学習を通し、子どもと器楽表現を学び、第8回では指導計画の立案の考え方、指導案の作成の仕方について学習する。	主要授業科目 オムニバス方式
専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	子どもと表現（造形）	○	（概要） 「子どもと表現（造形）」の授業では、子どもの造形的な表現とその発達について理解するとともに、領域「表現」の指導に関する専門的事項（子どもの感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成など）について実践的に学び、乳幼児期の造形表現活動を支えるための知識・技能、表現力を身に付ける。 （オムニバス方式/全8回） （13 山成 美穂/4回）第1回の授業では、領域「表現」の根源的な意義について、造形表現活動を視野に入れて学び、第2回授業では表現のねらいと内容の視点から、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と小学校の図工教育との連続性について理解を深める。第3回は、子どもの発達の特性と造形的な表現の特徴を、諸学説などを参照しながら学ぶ。第8回では、これまでの授業における理論と実技との両輪がどのように子どもの心身の成長に関与するかを振り返り、今後の指導の見直しを持てるよう、学習を収斂させていく。 （18 曾我 市太郎/4回）第4回の授業では、子どもと造形的な表現について実技に向けた用具や技法など実践への足掛かりとなる学びを深める。第5回は子どもと自然との関わりをテーマに、様々な身近な材料を基にした制作を行う。第6回は、季節を感じる作品の意義と制作上の留意点を理解して制作を行う。第7回は、これまでの作品を振り返り、その意義やねらい、留意点などにフォーカスして指導計画を考える。	主要授業科目 オムニバス方式

専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	保育内容総論	○	保育内容とは、乳幼児が園生活において経験したり、取り組んだりしていく活動のすべてを意味する。この講義では、幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示されている保育の基本、領域の考え方について学び、保育内容の5領域を総合的に捉える視点を身につける。また、子どもの発達のプロセスや個々の特性に応じた保育、多様なニーズに応じた保育といった保育内容の展開について事例を通して具体的に検討しつつ、保育の現代的な課題についても理解を深めていく。	主要授業科目
専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	保育内容演習健康		この授業では、保育内容を構成する5領域のひとつである領域「健康」についてその意義を理解した上で子どもの心身の健やかな発達に及ぼす保育の可能性について学ぶ。子どもの健康な心と体を育みつつ、子ども自らの健康な心身への興味・関心を促し、積極的な身体活動（遊び）を通じた健康増進への援助や指導、安全・安心な生活のための保育環境の構成などといった具体的な取り組みについて実践を通して学びを深め、乳幼児の健康な生活を育むために必要な知識と技能を習得する。	
専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	保育内容演習人間関係		子どもの自主性と生活の充実感を育み、身近な人と親しみ、支え合って生活できることは、乳幼児期の社会性発達において重要である。その人との関わりの発達をどのように援助していくか理解することを目指し、保育者の援助の在り方を学修していく。乳幼児期に、子どもたちの人間関係がどのように広がり、また深まっていくのか、その過程を検討していく。また、他者とかかわる力を育むことをねらいとした具体的な保育の指導案を作成し、模擬保育を行い、振り返りを図る。	
専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	保育内容演習環境		1. 子どもを取り巻くさまざまな環境（自然、物的、人的等）について理解を深め、具体的な子どもの姿と結び付けながら学習する。 2. 領域「環境」のねらい及び内容への理解を深め、保育活動との関連について学ぶ。 3. 演習や各課題を通して、保育実践に必要な知識や技術をより具体的に、多角的に学ぶ。	
専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	保育内容演習言葉		乳幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている領域「言葉」のねらい及び内容を理解する。また、乳幼児期の発達段階を考慮した上で、領域「言葉」に関する具体的な指導場面を想定した保育を構想する。そして、言葉に関する指導計画を作成し、模擬保育の実践を行い、その実践を振り返ることで、子どもの言葉を育むための保育実践力を身につける。	
専門教育科目	幼稚園領域・保育内容指導法	保育内容演習表現		(概要) 表現領域における造形表現と音楽表現の特性を理解し、保育活動の中で必要な知識と技術を学ぶ。造形（図工）と音楽の融合教材であるオリジナル教材を制作し、保育における教材研究の意義を考察する。また、子どもの表現活動の援助のあり方や、造形・音楽に関する教材の取り扱いについて理解を深める。 (オムニバス方式/全15回) (2 薩摩林 淑子/7.5回) 第1回の授業で、領域「表現」における目的について、幼児期の音楽活動の観点から学ぶ。第9～10回の授業で歌唱表現について学ぶ。保育者としての歌唱技術を習得し、歌唱指導上の留意点、子どもの歌唱を支えるピアノ伴奏法と先歌い、コードネームについて学習する。第11～13回の授業では、わらべうた（乳児編・幼児編）や、手遊び・遊び歌といった歌を伴う音楽あそびから、身体表現について学ぶ。第14回の授業で、リズム楽器の奏法から楽器表現について学び、絵本の教材性と絵本に音をつける活動から絵本と音楽について考える。第15回の授業では、造形と音楽の融合教材「歌のしかけ絵本」を用いた指導案の作成と模擬保育の実践を行い、ICTを活用した実践と留意点について学ぶ。 (18 曾我 市太郎/7.5回) 第1回の授業で、領域「表現」における目的について、幼児期の造形活動の観点から学び、「歌のしかけ絵本」作成の導入学習を行う。第2～7回の授業を通して、技法遊びと制作を行う。まず、表現教材の制作に対する考え方と手順を理解し、構想を練る。幼児の体験と音響、映像・ICT活用、発達段階と造形表現・あそび心を育むことについて学び、絵本の歴史と役割について考える。第7～8回の授業で仕上げと装丁について学び、幼児への表現指導とその留意点・ICTを活用した表現技法について考え、第15回の授業における模擬保育に向けての教材研究と指導案の作成の仕方について学ぶ。	オムニバス方式
専門教育科目	小学校教職・幼稚園	教育原理	○	教育活動に携わる者としての見識を高めるために、人間と教育について原点的な視点から探究する。本科目「教育原理」は、本学科（教育学領域）の主要科目であり、教職科目の総論的な科目である。授業では、人間の生涯にとって教育がどのような意味をもつかについて考察し、基本的な教育学的知見について学ぶ。教育の理念・目的・目標、思想、歴史を中心に教育一般に関する原理的な理解を目指す。	主要授業科目

専門教育科目	小学校・幼稚園 教職	教職概論（同和教育を含む）	○	教育の目的や服務等について、法令や関係資料から読み取るとともに、現場の状況や実践事例に基づいて理解を深める。また、今日的な教育課題を分析し、求められる教師像を考察する。さらに、教師としての自分の将来像や取り組み課題を明確化する。（実務経験を活かした授業）	主要授業科目
専門教育科目	小学校・幼稚園 教職	教育制度		教育制度の基本的事項を学ぶ。国内外の歴史・現状および制度を取り巻く社会的状況をとらえる。具体的には学校教育、社会教育、学校・学級経営、教職員制度、教育行財政、教育課程行政、地域連携、学校安全・保健を扱う。また基礎をふまえて児童福祉との連携例や時事問題を扱い、発展的に学ぶ。（実務経験を活かした授業）	
専門教育科目	小学校・幼稚園 教職	発達心理学	○	<p>（概要）</p> <p>発達心理学は、人間の発達過程を心理学的観点から明らかにする学問である。またそれぞれの発達段階において子どもたちがどのように様々なことを学んでいくかという学習の過程に関する理論も提示する。この授業では、乳幼児期からはじめて、老年期に至るまで、それぞれの時期で重要な事柄について紹介していく。また、教育・保育に携わる者にとって極めて大切である子どもたちの学びをどのように支えていけばよいかについても学んでいく。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（4 細野 美幸/8回）</p> <p>第1回の授業では、発達心理学とは何かを解説する。第2～5回の授業を通し、乳幼児期の発達について、運動機能、記憶の発達、心の理論、ピアジェ理論を学ぶ。第11回の授業では、友人関係やアイデンティティの問題を中心に、児童期・青年期の発達について学習し、第12回の授業で、子どもたちの学習過程を説明する諸理論について考える。第13回の授業で、集団の中で学ぶ子どもについて考察する。</p> <p>（17 小林 博子/7回）</p> <p>第6～8回の授業を通し、乳幼児期の発達について、感情と自己、ことば、社会性を学ぶ。第9～10回の授業では、学校適応、自尊心、発達課題について考え、児童期の発達について学習する。第14回の授業では、動機づけと学習評価の在り方について、第15回の授業では、子どもたちの主体的な学びをどのように支えていくかについて考える。</p>	主要授業科目 オムニバス方式
専門教育科目	小学校・幼稚園 教職	教育心理学		教育場面の問題を心理学的な見地から解釈するために、教育にかかわる心理学の基礎知識を習得する。学習心理学、動機づけ、子どもの認知発達、記憶心理学、教育評価についての知識を習得し、教育を進めるために役立つ知見や方法を学習する。また、教育心理学に関する調査研究をもとに、日常場面での心理学的な知識をイメージできるようになり、今日の教育を取り巻く諸問題について考察する力を身につける。	
専門教育科目	小学校・幼稚園 教職	特別支援教育		障害の有無にかかわらず特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒に対し、他職種や関係機関等と適切に連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を学べるよう、実践的事例を交えながら授業を展開する。具体的には、特別支援教育の理念や制度、障害のある子どもの就学のしくみ等の理解を図った上で、通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等のある幼児・児童・生徒の特性、実態及び配慮事項や、障害はないが外国につながる、貧困等の特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒について学びを深める。	
専門教育科目	小学校・幼稚園 教職	教育方法・技術 （情報通信技術の活用を含む）		子どもたちの資質・能力を育成するために、授業などの教育活動において必要な基本的な方法を理解するとともに、それらを実践するための基礎的な力を身に付ける。また、授業などの教育活動において、ICT活用による効果を理解した上で、実際にデジタル教材等を活用しつつ、子どもたちの情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するための基礎的なスキルを身に付ける。	
専門教育科目	小学校・幼稚園 教職	教育相談	○	教育相談は、幼児、児童及び生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。本授業では、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）を学ぶことが主眼となる。	主要授業科目

専門教育科目	小学校教職	カリキュラム論Ⅱ	○	教育の現場では、教師に教育課程（カリキュラム）のデザイン力や各学校の創意工夫が求められる時代になってきている。授業では、小学校教育におけるカリキュラムや小学校学習指導要領に基づく基本的な知識を学ぶとともに、確かな教育理念や教育目的を具現化する教育課程編成の方法原理やカリキュラム・マネジメント、教育活動の取り組みや教育評価の在り方について考える。	主要授業科目
専門教育科目	小学校教職	道徳教育の理論と方法		人間形成の重要な役割を担う道徳教育の動向と課題を明確にしなが ら、道徳教育の基礎理論と実践を展開する。基礎理論では、道徳及び 道徳教育の基本的な問題にアプローチし、学校における道徳教育を中心 に、道徳教育の目標と内容、指導計画、授業構成、実践的指導、道 徳の教科化について理解を深める。	
専門教育科目	小学校教職	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法		特別活動は、学校における様々な構成の集団での活動を通して、問題 の発見や解決を図り、よりよい集団や学校生活を築く児童生徒の自主 的・実践的な活動である。また、総合的な学習の時間は、探求的な学 習を原理として、汎用的な資質・能力を育成し、各教科等・考え方を 結集して全ての学習の基礎として生まれ活用される力を包括的に発揮 する学習である。特別活動、総合的な学習の時間における教育活動の 意義や内容、指導方法について理解を深め、具体的な実践的指導力の 養成を目指す。	
専門教育科目	小学校教職	児童指導	○	自己実現を図るための生きる力の育成を目指す児童指導の意義を踏ま え、一人一人の個性を発見しよさや可能性を伸ばすための自己選択や 自己決定の場や機会での指導や援助の事例に触れ、児童指導の実際を 学ぶ授業を展開する。 (実務経験を活かした授業)	主要授業科目
専門教育科目	幼稚園教職	カリキュラム論Ⅰ	○	教育課程・全体的な計画の意義や編成にあたっての基本的な考え方を 理解するとともに、指導計画の作成における具体的な方法について学 ぶ。また、保育の計画、実践、省察、改善の過程についても取り上げ ながら、カリキュラム・マネジメントによる保育の質の向上について の理解が深められるようにする。就学前と小学校の教育をつなぐカリ キュラムや、要録の実際について学ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	幼稚園教職	幼児指導	○	幼児理解は、教師が実践を行う際のあらゆる営みの基本となる姿勢で ある。授業では、幼児理解の意義や原理を学び、幼稚園における映像 資料や事例研究を通して、具体的な幼児の姿を理解していく。また幼 児理解の目的に応じて、環境図、エピソード記録、ポートフォリオ、 ドキュメンテーション等ヴィジブルな保育記録等の作成方法を学び、 幼児理解の道筋や根拠について確認しながら保育者の幼児理解力を学 修する。さらに教師の適切な幼児理解の姿勢（個と集団を捉える意 義、つまずきの背景を知る等）に基づき、保護者との連携を視野に入 れ、一人一人の子どもの発達状況に応じた指導を行うことの重要性を学 ぶ。	主要授業科目
専門教育科目	小学校・幼稚園教育実践	教育実習指導	○	〔幼稚園〕 教員（保育者）としての実践能力を養うために、実習校（実習園）で 担当教員（担当保育者）の指導を受けつつ「観察」「実習」等の活動 を体験する。実習に向けて、教育実習の意義や心構え、児童理解の方 法や授業設計及び学級経営等について具体的に学び、教員（保育者） としての自覚と使命感を高め、自己のあり方となすべき課題を明確に 認識する。 〔小学校〕 教員としての実践能力を養うために、実習校で担当教員の指導を受け つつ「観察」「実習」等の活動を体験する。実習に向けて、教育実習 の意義や心構え、児童理解の方法や授業設計及び学級経営等について 具体的に学び、教員としての自覚と使命感を高め、自己のあり方とな すべき課題を明確に認識する。	主要授業科目 共同
専門教育科目	小学校・幼稚園教育実 践	教育実習	○	教育実習とは、教員としての実践能力を養うために、実習校において 担当教員の指導を受け、学校（幼児）教育の実際を体験的・総合的に学 ぶ機会である。4週間の実習期間中では、「観察」「参加」「実習」と いう方法で教育実践に参加し、教員に求められる基礎的な能力と態度 を身につけることが重要である。 実習に向けては、教育実習の意義や心構え、児童・幼児理解の方法や 授業設計及び学級経営等について具体的に学び、子どもへの愛情を深 め、教員としての自覚と使命感を高めると共に、将来教員になる上 での能力や適性を考え、自己の課題を明確に自覚する機会とする。	主要授業科目 共同
専門教育科目	小学校・幼稚園 教育実践	教職実践演習（幼・小）	○	本講義では、各自の履修履歴と実習体験からの学びを確認する。保 育・授業観察、実践者との意見交換、実践記録や保育VTRを基にした グループ討議を行う。指導案の作成、模擬保育・授業、仮想保育室作 り、振り返りを行い、教材研究・環境構成・指導方法・評価などにつ いて確認する。また、ICT等の効果的な活用方法について検討する。	主要授業科目 共同

専門教育科目	児童厚生指導員	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	<p>(概要) 児童福祉法制定当時の経緯、児童福祉法に盛り込まれた健全育成の考え、健全育成の具体的な内容、現代の子どもの健全育成上の課題、遊びの健全育成上の意義を学ぶ。 また、児童館、放課後児童クラブ、それぞれについての起源や施策の経緯、基本的な機能と役割や運営上の留意点及びガイドラインについて学び、今後の課題と展望を概観する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(9 高須 正幸/5回) 第1回～第5回の授業を担当する。児童福祉の歴史や児童福祉法の理念と健全育成の位置づけからはじめ、健全育成の具体的な内容と遊びの意味について理解を深める。さらに児童館・放課後児童クラブの変遷や概要と特性など基礎的事項について学習する。</p> <p>(37 猿渡 智衛/10回) 第6回～第15回の授業を担当する。まず、児童館についてはガイドラインの内容と求められる機能、放課後児童クラブについては「基準」「運営指針」「認定資格研修」を学ぶ。続いて運営管理、安全対策などの運営面について、児童館・放課後児童クラブの環境構成や障害児支援などにおける配慮事項や、児童厚生員・放課後児童指導員の職場倫理について学習する。最後に児童館・放課後児童クラブの課題と展望を考察したうえで講義内容全体を振り返る。</p>	オムニバス方式
専門教育科目	児童厚生指導員	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法①	児童福祉法に規定された児童館・放課後児童クラブは、児童の健全育成活動を推進し、子どもにとって地域社会の安心・安全な居場所となる児童福祉施設である。この科目は、児童館・放課後児童クラブの基本的な概要を押さえて、児童館・放課後児童クラブの活動内容とその実際や、子どもの発達段階における「遊び」の大切さを学ぶ。また、専門職が遊びを支援するときに求められる視点と技法を習得する。そして児童館・放課後児童クラブの今日的課題を学び、児童厚生員等がソーシャルワーク的な視点を持ち、子ども、保護者、地域住民への支援方法を知る。	
専門教育科目	児童厚生指導員	児童館実習	10日間にわたり児童館・放課後児童クラブにおける活動を体験的に理解することにより、児童厚生員としての自己課題を明らかにする。	共同
専門教育科目	幼児体育指導員	幼児の運動指導	幼児のかかえる様々な健康問題を踏まえ、幼児期における子どもの運動遊びの重要性と子どもの発育発達に合わせた運動がどのようなものかを学んでいく。幼児体育のあり方や基本理念、体育指導の計画や実践方法について実践できる資質・能力を養っていく。本授業科目はオンデマンドによる講義と対面による実技によって展開されていく。	
専門教育科目	レクリエーション・インストラクター	レクリエーション理論	レクリエーションに関する基礎理論を学び、現代社会におけるレクリエーションの役割と必要性を理解する。レクリエーション支援の内容や方法を学習することにより、実際の教育現場においてレクリエーションを上手に活用できる人材を育成する。本授業科目は講義と実技、演習によって展開されていく。	
専門教育科目	レクリエーション・インストラクター	レクリエーション実技	『レクリエーション理論』の学習内容を踏まえ、レクリエーション支援者としての資質と能力、及び表現力を高めていく。またコミュニケーションや生涯スポーツの視点を大切に、地域社会や教育現場において集団を対象としたレクリエーション活動を支援・指導できる人材を育成する。本授業科目は実技と演習によって展開されていく。	
専門教育科目	レクリエーション・インストラクター	レクリエーション実習(学外)	レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な学外実習を行う。所定のレクリエーション事業に「参加者」及び「運営スタッフ」として参加する。	
専門教育科目	キャンプインストラクター	キャンプと自然体験	自然の中で行われるキャンプ活動は子どもの心身の発達に大きな影響を与える。野外を上手に活用することによって自然と共存できる人間の育成を目指し、指導者としてキャンプを実践できる能力を養っていく。本授業科目はオンデマンド講義及び学外での宿泊を伴う実技活動によって展開される。	

専門教育科目	秘書士	秘書学概論	ビジネスの現場や様々な仕事の場に於いて秘書的な働き方や実務が必要とされる。秘書学概論は、秘書的な働き方を通してより有益な人柄や資質を育て、職務内容を知り、雇用される力を身につける。一般社会常識、秘書的な実務、ビジネスの現場で活かせるマナーや話し方、美しい所作を身につける。インターンシップ、実習、就職活動、面接への準備としても有効な講座である。秘書概論・秘書実務の両講義を通年で取ることをお勧めする。	
専門教育科目	秘書士	秘書実務	ビジネスの現場で実務力を発揮するためには秘書の働き方を学ぶことに意義があると考えられる。秘書実務では概論で学んだ内容をより具体的にビジネス実務力として定着させる。接遇現場での応対作法、文書の作成、メール作法、電話対応（日本語・英語）文書管理、会議設営、スケジュール管理などを学ぶ。秘書概論・秘書実務の両講義を通年で取られることをお勧めする。また面接や就職活動に必要なビジネスマナーを習得する。希望者にはCB方式で受けられる（公）実務技能検定協会主催・秘書技能検定2級合格対策も行う。	

学校法人鎌倉女子大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
鎌倉女子大学				鎌倉女子大学				
家政学部				家政学部				
家政保健学科	80	—	320	家政保健学科	80	—	320	
管理栄養学科	120	—	480	管理栄養学科	120	—	480	
児童学部				児童学部				
児童学科	170	—	680	児童学科	170	—	680	
子ども心理学科	50	—	200	子ども心理学科	50	—	200	
教育学部				教育学部				
教育学科	80	20	360	教育学科	80	20	360	
計				計				
	500	20	2,040		500	20	2,040	
鎌倉女子大学大学院				鎌倉女子大学大学院				
児童学研究科				児童学研究科				
児童学専攻	10	—	20	児童学専攻	10	—	20	
計	10	—	20	計	10	—	20	
鎌倉女子大学短期大学部				鎌倉女子大学短期大学部				
初等教育学科	200	—	400	初等教育学科	200	—	400	
				初等教育学科通信教育課程	300	—	600	通信教育開設 (認可申請)
計	200	—	400	計	500	—	1,000	